

世界平和聖観世音菩薩 [観世音菩薩]

1964 年に建立された世界平和観世音菩薩は、慈悲と哀れみの仏である観音菩薩を表現したもので、重さ約 22 トン、高さ 25 メートルという数字は、青銅立像では世界最大級である。精神の清らかさと悟りの象徴である蓮の花の上に立った姿で、相手を受け入れて守護する意味の手印を結んでいる。また、像自体には世界平和の祈念が込められている。

この像は、第二次世界大戦以前に建立されたこれよりもさらに大きい像の代わりに再建されたもので、どちらも、左手にある大悲殿（だいひでん）の本堂に所蔵されているサイズのさらに小さい青銅像をもとに作られた。戦時中、その小ぶりの像と初代の像は、溶かして武器にするため軍に接収されてしまった。大きい方の像は分解された後に輸送されたが、さまざまな手違いから寺に戻ってきた。一方、小さい方の像は山中に隠して保護されており、終戦から 2 年後に発見され、大悲殿に戻された。そして、これを戦時協力に対する観音菩薩の明らかな拒絶だと考えた地元住民が、世界平和の象徴として像を再建することにしたのである。

大悲殿にはこの他にもたくさんのものが収蔵されており、その中には、地球上から核兵器が廃絶されるまで燃え続けている広島の平和の灯から点火した灯火や、関西で有名な西国観音巡礼からの写し本尊である三十三観音像などがある。